

研究課題名	進行非小細胞肺癌に対するPD-1 阻害薬投与後の化学療法の有効性や安全性を検討する後方視的多施設研究 (WJOG10217L)
研究責任者名	広島大学大学院医歯薬保健学研究科分子内科学 教授 服部 登
研究期間	2018年1月17日(倫理委員会承認後) ~ 2019年 6月
対象者	<p>ニボルマブ又はペムブロリズマブの治療を受けたのちに、その次治療として、2015年12月から2017年7月の間に、広島大学病院呼吸器内科で、ドセタキセル単剤療法、ペメトレキセド単剤療法、S-1 単剤療法又はドセタキセルとラムシルマブの併用療法を受けられた患者さん。</p> <p>もしくは、ニボルマブ又はペムブロリズマブの治療を受けたことがなく、2014年4月から2017年7月の間に、広島大学病院呼吸器内科で、ドセタキセル単剤療法、ペメトレキセド単剤療法、S-1 単剤療法又はドセタキセルとラムシルマブの併用療法を受けられた患者さん。</p>
意義・目的	<p>初回治療や二次治療におけるニボルマブ又はペムブロリズマブの効果・安全性については、明らかになっていますが、ニボルマブ又はペムブロリズマブの治療後に行われる一般的な抗癌剤の有用性・安全性についてはまだ解明されていません。今回、ニボルマブ又はペムブロリズマブの治療後に行われる抗癌剤の有用性・安全性を明らかにするため、この研究を計画しました。</p>
方法	<p>本研究は、診療録(カルテ)情報を調査して行います。</p> <p>カルテから使用する内容は、患者基本情報(年齢・性別・肺癌病期・肺癌進行度など)、化学療法内容(治療回数・治療効果・有害事象など)、肺癌の全治療内容などです。</p> <p>(個人を特定可能な情報は解析に用いません)</p>
共同研究機関	<p>西日本がん研究機構(WJOG): 研究運営機関</p> <p>近畿大学医学部内科学腫瘍内科部門 講師 林秀敏: 統括研究責任者 など</p> <p>全国の約55施設と共同で実施する臨床研究です。</p> <p>西日本がん研究機構(WJOG)に情報を集め、</p> <p>近畿大学医学部附属病院臨床研究センター(統計解析責任者: 千葉康敬)にて解析します。</p>
試料・情報の管理責任者	<p>広島大学大学院医歯薬保健学研究科分子内科学 教授 服部 登</p> <p>近畿大学医学部内科学腫瘍内科部門 講師 林 秀敏</p>
個人情報の保護について	<p>調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。</p>

問合せ・苦情等の窓口

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

T e l : 082-257-5198

広島大学病院呼吸器内科 職名 助教 坂本 信二郎

研究機関：広島大学